

実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 15 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	見てみようよ!常総市の会
代表者名	染谷みどり
プラン全体のタイトル	オープンストリートマップでつくる水害 6 年 目の常総市地図
電話番号	090-1836-9444
メールアドレス	0uh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp
実践団体の説明	「見てみようよ!常総市の会」は平成 27 年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として、水害記憶・記録の継承活動、水害常襲地帯としての地域の歴史の勉強会、他県の大規模災害地におけるメモリアル活動の視察などを行ってきた。水害記憶継承活動では、洪水に見舞われた市内の各地(許可を得た場所)に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」を数年実施してきた。このほか中心地・水海道や 2 本の一級河川(鬼怒川・小貝川)を舞台にしたガイドウォークやカヌー体験を加えた水害継承イベントを実施してきている。
所属メンバー	染谷みどり(代表) 中村ゆき江(会計) 佐藤孝俊(庶務) 羽富都史彰 森良(顧問)
活動地域	茨城県常総市内
活動開始時期・結成時期	2016 年 2 月 発足
過去の活動履歴・受賞歴	2017 年度・2018 年度・2022 年度 防災教育チャレンジ プラン実行団体

プラン全体の概要	<p>水害の記憶が薄れつつある中、新たな手法で関心を喚起し、コロナ禍でも減衰しにくい活動として、web 上で参加できる新しい形での展開で、空間的・時間的・身体状況的制約を超えた、広がりのある防災の動きをつくる。</p> <p>Web 上無料オープンプラットフォーム「オープンストリートマップ (OSM)」を水害記憶の風化が進む常総市の水害メモリアルまちあるき地図作りに活用する。実施行程としては、①リアル街歩きイベントを中心市街地・水海道で1回実施し、参加者に街にまだ残る水害の痕跡(影)や街の面白い場所(光)を撮影してもらい、それを街歩き後の振り返り会で OSM にコーディネイターが UP していく(→痕跡地図の初回作成)。②この地図は web 上にあり、新しい観光情報や災害危険箇所などを随時追加していける。③リアルイベント & 振り返り会の模様と OSM についての説明・利用法解説を載せた記録集を作成配布する。</p>
----------	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	2022年度取組推進 MTG	街歩き訪問地検討・交渉	
5月	OSM コーディネーター打合	訪問地下見	
6月	広報準備	最終行程プランニング	チラシ配布
7月		会場設営打合他	まちあるきイベント実施
8月			写真類とりまとめ
9月			OSM マニュアル作成
10月			中間報告会
11月			OSM 掲載ポイント整理
12月		冊子原稿とりまとめ	OSM 連動（仮）サイト作成
1月			常総市秘書課次年度展開打合
2月			報告会
3月			


プラン全体の反省点・課題・感想	イベント内で撮影した写真を OSM にアップロードする時間がかかり、結果的には、振り返り会時間中の“協働的地図づくり作業”は OSM 経由での地図上プロットは一部にとどまり、手動でのマップ上プロットとなった。オープンストリートマップのハンドリングとしては、リアルイベント時の共有には向かないことがわかった。
今後の活動予定	イベント時アップロード共有には適さない OSM であるが、無料で地図フォーマットを共有・更新できる点は引き続き有効。この「オープンストリートマップ」充実化を呼び水とし、かねてからその必要性が認識されてきた“水害資料館”を web 上で立ち上げていく準備活動を 2023 年度内をかけて継続実施する（水害資料館建設提案は行政に過去出しているがハード建設は予算的に不可能な為）。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 15 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	見てみようよ!常総市の会
実践番号	1
タイトル	オープンストリートマップでつくる水害 6 年目の常総市地図
実践担当者のお名前	佐藤孝俊

実践にかかった金額	30 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 4 月 1 日～西暦 2023 年 1 月末日
実践の所要時間	120 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	社会人/一般
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	茨城県 常総市
実践を行った具体的な場所	常総市水海道・北水海道・豊岡エリア
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	オープンストリートマップへのアップロードが指導できる コーディネイター

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・水害の記憶が薄れつつある中、新たな手法で関心を喚起する ・コロナ禍状況を踏まえ、リアルイベントだけでなく、これに web 空間の集合知構築を組み合わせたハイブリッド展開で、新しい市民参加防災活動のかたちをつくる ・水害の記憶の振り返りを、観光振興と抱き合わせた取組で推進する 	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<p>Web 無料オープンプラットフォーム「オープンストリートマップ (OSM) 」を水害記憶の風化が進む常総市の水害メモリアルまちあるき地図作りに活用。</p> <p>① リアル街歩きイベントを中心市街地・水海道で 1 回実施 参加者に街にまだ残る水害の痕跡 (影) や街の面白い場所 (光) を撮影してもらい、それを街歩き後の振り返り会で OSM にコーディネーターが UP していく (→痕跡地図の初回作成)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">振り返り会のディスカッション</p> <p>水害痕跡写真撮影ウォーク開始と撮影写真の地図上プロット</p> <p>②この地図は web 上にあり、新しい観光情報や災害危険箇所などを随時追加していきける。</p> <p>③リアルイベント&振り返り会の模様と OSM についての説明・利用法解説を載せた記録集を作成配布する。</p>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「オープンストリートマップ (OSM) 」を水害メモリアル地図づくりに初めて活用した。このフォーマットは、今後の情報追加・更新に継続して使うことができるため、Web 空間上のメモリアル充実化を呼びかけられる、継続的な記憶継承活動のよりどころを得ることができた。 ・OSM 上のポイント掲載箇所を写真で記録する機会としてイベントを企画し、コロナ禍にあって参加者を集め「水害の痕跡を街中に探す」ウォークの試みを実施できたことは成果だった。 ・単に街中の水害痕跡探しだけでなく、参加者の楽しみとして地元の寺での歴史講和をセットにしことイベントそのものが好評だった (水害の事実そのものに関心が薄れつつある中で、現在の市民の感覚からみた“愉しみ”の部分と水害記憶継承をセットにすることで記憶継承を図るあり方を確立できた) 	
<p>どのくらい身につきましたか?</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>まちあるきイベント内で撮影した写真をその後当日の振り返り会で OSM にアップロードする企画だったが、OSM へのアップに時間がかかり、結果的には、リアルイベント時の共有には OSM は適さないことがわかった。しかしながら無料で地図フォーマットを共有・更新できる点は引き続き有効であることから、今後はこの OSM の充実化 (Web 空間上のよりどころ充実化) をもとに、継続的な運動の広がりをつくっていきたい。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	一般社団法人地域連携プラットフォーム
関係者の説明	上記団体共同代表・長岡氏にOSMコーディネーターを依頼
関係者の名前・団体名	〒353-0002 埼玉県志木市館 2-5-2 鹿島ビル4階（志木サテライトオフィス内）
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	被災後時間が経過している被災地の継承活動推進者
伝えたい内容	時間経過とともに困難になる継承活動継続のための工夫を共有希望